

こうち子ども観光大使認定式

盛会御礼新聞 高知城歴史博物館

平成29年9月2日

2017年9月2日

最後の講座も満員御礼

9月2日、こうち子ども観光大使最後の講座である「高知城歴史博物館」が行われた。参加者は小学生48名、保護者44名、同伴者の兄弟姉妹を入れると100名を越える大イベントとなった。開会挨拶は副館長の横山さん。「本館には高知やかりの資料を展示しています。高知の歴史を楽しんで下さい。」

この日の前半は高知城歴史博物館による講座。全体を2グループに分けて、一つは歴史博物館見学。そして、もう一つは一階のホールに残って、その場で2つのブースに分かれて体験学習を行った。体験学習では、おもしろ兜試着、日本刀を持つ体験、そして武家の遊びである貝殻合わせ体験をした。それぞれの体験は約20分と短かったが高知城歴史博物館・学芸員の方々の説明スキル、盛り上げるスキルの高さにより、どの子どもも意欲的に見学・試着・体験を満喫していた。



ワクワクときどきの認定式

後半は今年の3月にオープンしたばかりの同会場ホールにて、第二期こうち子ども観光大使の認定式を行った。まずは、これまでの活動を振り返るスライドショー鑑賞からスタート。必修講座を合わせると全部で7回実施してきた講座を5分で一気に振り返った。子どもも保護者も画面に釘付け状態。会場全体が卒業式のようなしっとりとした空気に包まれた。続いて、高知の良さをどのように発信していくのかを学ぶ「How to PR講座」である。この講座は、選択講座の中で保護者がアンケートに要望として書いてくれた事をきっかけに企画した講座である。PRの基本は元気な挨拶から。観光客の方々に会ったら、子ども観光大使が得意とする元気な挨拶でもてなし。挨拶から会話は始まる。ところで、高知県には観光客は沢山来るのか？

「高知県は現在行っているイベントの名前は？」「こっくこうち・○○○いしんはく。」

子どもの大きな声が返ってきた。「ばくまっ！」
それだけではない。高知新港に



は年間35回もの豪華客船がやってくるなどの事実を伝えた。他にも、高知の郵便局でしか買うことができないご当地フォルムカードや高知家ONOTENASHIハッパンでのPR方法を学んだ。

緊張のラストスピーチ

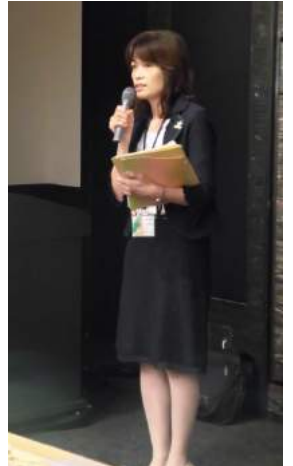
子ども観光大使になるためには観光客に自ら挨拶をするなどの積極性が求められる。そこで、6月の必修講座でも行ったスピーチに全員が再挑戦をした。



100人もの人々が見守る中1年生のスピーチが始まる。「○○です。一番思い出に残っているのはカツオのたたきです。」と高知のうまいものを学んだ思い出を語ってくれた。高学年の女子児童は「高知県のよさを広めるために、将来は高知県の職員になります」と宣言。

ある男子児童は「豪華客船など高知県にも沢山の外国の方が来るので、英語を話せるように英語の勉強をします」と宣言。必修講座の時のスピーチとは比べものにならないくらい立派な姿に成長をしていた。子どももスピーチが終わる度、会場は惜しみない拍手に包まれた。

県庁おもてなし課・田村課長



「私たちおもてなし課というのは、高知へ来て下さった観光客の皆様を暖かくお迎えするよう活動を推進しています。皆さんのスピーチを大変心強く聞いていました。ゴミを拾うとか笑顔で挨拶をするとか、身近でできることを、できるときにやっていく。そういう活動を願っています。」

高知県議会・田中 徹議員



「様々な活動を通じて、知っていたこともより深く、また新しい発見もあったことと思います。高知県には、まだまだ沢山の魅力があると思います。高知県は東西に広がっております。これから皆さん自身で、高知の魅力を発信されて、多くの方々に発信をしていただきたいと思います。高知県を好きになって、誇りに思っていたくださいたいと願っております。」

参加者アンケート(保護者)

・ 今回のイベント、大変楽しく参加させていただきました。我が家は県外からの移住組ですので、親も高知県の事をあまり知らない事が多く、親子でいろいろな勉強をさせていただきました。感謝しております。

・ この観光大使でいろんな所へ行って、本人・家族 満足しています。いろんな勉強ができ、本人のスピーチがこれからの人生に活かされるかと思えます。

・ どの回も、もっとどっぴり満喫したいくらいよかったです。もともと高知が大好きであちこちに出かけるのが楽しみでしたが、その魅力をどんどん伝えて、高知を盛り上げていける子になって欲しいと思います。今回の参加をきっかけに夏休みには「こうちカルタ」【高知旅すごっこゲーム】を作りました！

・ 受け身な性格なので、人前で話をする機会になりよかったです。毎回、賞状をもらえたことは、本人の自信になっていました。

・ 大きな声で明るくはつきりと話すことや心のもった拍手やおもてなしの大切さを学ぶことができました。

